

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月18日

【評価実施概要】

事業所番号	3670101611
法人名	医療法人 青志会
事業所名	グループホーム ハートインライフ住吉
所在地	徳島県徳島市住吉二丁目9番8 (電話)088-602-4388

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 2月 9日

【情報提供票より】(平成20年1月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤7人,非常勤4人,常勤換算 1F 7.4人, 2F 6.8人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,800 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(1月20日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	9 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.4 歳	最低 72 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	・もりの医院
---------	--------

徳島県 ハートインライフ住吉 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市内東部の静かな住宅密集地の中にあり、隣接して保育所がある。近くにはスーパーや数々の商店が点在し、専門の病院や総合病院、小学校、高校、大学も近く、日常生活のニーズを解決するためには大変便利な場所である。経営者と管理者は、指示、報告を密にしてよく連携が取られ、全職員が一体となり新しいグループホームを創り上げようと努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題であった利用者の「権利・義務」は、契約書に1項目を設けて明記し改善されていた。「身体拘束」「秘密保持」の項目も事業所の「運営規程」「利用契約書」の中に明記し、利用者や家族に説明をして、署名、捺印をもらうように改善されていた。その他の課題についても改善に取り組まれていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は(項目:V. サービスの成果に関する項目)について、家族アンケートを実施して参考にし、管理者を中心に職員全体の意見を集め、運営者の助言を入れて話し合い作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヵ月に1回開催されている。内容としては、行事について、防災対策について、日常生活について等を議題にして討議をしている。参加者は、市役所の職員、地域包括支援センターの職員、地域代表、有識者、家族代表、理事、法人の事務局、職員が参加している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱を設置しているが、直接職員に伝えてくれる。グループホーム内の対応責任者、公的機関への意見の申し立てができることを「重要事項説明書」に明記し、説明している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>隣接する保育所の園児の訪問や小学校の校外実習、介護実習生の受け入れをしたり、囲碁の相手をしてくれる人やはた織りのボランティアも受け入れている。利用者の中で老人会に入会している方もあり、地域の行事、祭りにも参加して相互に交流を深めている。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの理念として、事業所独自の理念を職員間で話し合い作成されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「気持ちの良い挨拶と笑顔」をモットーに、笑い声が溢れる雰囲気づくりを大切に、生き生きとした表情を見せていただけるように常に理念を念頭に置き、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の校外実習生や介護実習生を受け入れ利用者との交流を図っている。また、老人会に加入している利用者の方もあり、地域の行事に参加したり、地域の保育所、ボランティア(カラオケ、囲碁)の訪問もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	家族アンケートを実施し、その意見を取り入れている。自己評価の作成も管理者、職員で話し合い作成されている。外部評価の改善項目についても話し合いをして改善に取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。会議では行事について、防災対策について、日常生活について(利用者の日常生活をビデオに撮り見てもらう)を議題にして討議している。参加者は、市役所の職員、地域包括支援センター職員、地域代表、有識者、家族代表等が参加し、助言をもらい改善に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者、管理者は、月に2回以上、市町村の担当者の所に出かけ、助言を受けるなどしてサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	心身に変化のある時は、家族に電話で連絡をするようにしている。「まごころ通信」は、3か月に1回利用者にとって暮らしぶりを知らせている。金銭管理の詳細についても郵送し、面会の時には確認印、サイン等ももらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、直接職員に伝えてくれる。グループホーム内での苦情受付担当者も決めて、外部の公的機関にも申し出ができることを「重要事項説明書」にも明記し説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同じ事業所間での異動や自己都合による退職はあるが、十分に引継ぎを行うなどし、利用者への影響に配慮するように取り組まれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し、法人内の研修、段階を踏んでの研修等に職員の希望を聞いて受講することができるようにしている。研修内容の報告も書面をとおして職員に周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入している同じ法人のグループホームと情報を共有し、そのネットワークによる勉強会等に参加し、同業者との交流に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が、事前に家族や本人と面会し、本人と馴染みの関係作りをし、グループホームを見学して雰囲気を知ってもらい、無理のないように利用を勧めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の希望や好みを知り、心身の状況に配慮しながら、干し柿作り、正月飾り、畑仕事、調理等、職員と協働して取り組む関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴の中から趣味や思いを把握し、家族の意見も聞いて、住み慣れた住居に近いように居室を飾るように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望を聞き、医師の助言と職員の情報を合わせて総合的に判断し、連携して介護計画を作成している。アセスメントの書式もよりよい物になるよう工夫をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、月ごとに振り返りをして、定期的な見直しと、心身の状況に応じての見直しをして、本人、家族、医師や職員の意見を総合して作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望にそって、通院や外出など、柔軟に対応がされている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尊重し、入居前のかかりつけ医の受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い時期に本人、家族、医師、職員がよく話し合い、重度化や終末期の看取りも考えて、方針や対応を全員で共有し周知している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を損ねるような声かけはみられない。家族に送る「まごころ通信」にも、プライバシーに配慮し利用者の写真は、本人の家族にのみ郵送している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの好みや希望を聞いて、外出など行事を決めている。室内での余暇の過ごし方は、職員の方から提案しているが、利用者が選択できるように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食と木曜日の夕食は、職員が利用者と一緒に食材を購入して調理をしている。利用者が進んで調理や盛り付けをしている姿も見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯を一人ひとりに合わせて行っている。しょうぶ湯、ゆず湯等季節感のある配慮をし、週一回しか入浴しない人には、人を替えて入浴を勧めるよう工夫している。また、清拭や足浴などもしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や食事の盛り付けを手伝う人、洗濯物をたたむ人の姿も見られた。利用者と職員が畑作業を共にすることができるようになっている。また、絵画が趣味の利用者の作品を廊下に展示して、鑑賞できるようにされていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのスーパーへの買い物、花見、外食、ドライブ等の行事を計画し支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵をかけないようにしているが、黙って出て行く人がいるので、その把握のためにチャイムが鳴るようにしている。出かけようとするときに気づいたときは、さりげなく同行している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施し、避難誘導図の作成をしている。運営推進会議でも議題として「防災対策」についての話し合いがされ、緊急時の対応について地域の方とも共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養バランスや、必要な水分摂取量等については、医師、栄養士、職員が共にチェックし、一日を通じて必要量が確保できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームの外壁や廊下は、温もりのある木の作りで、居間には、炬燵を置いた畳の一角があり、横になってくつろげる。行事の時の明るい笑顔の写真も飾ったり、利用者の作成した絵画も掲示され、居心地良く過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の愛用のダンスや鏡台を持ち込み、好みの花瓶に生花を生け、元気な時に描いた絵画を飾っている人もいる。また、それぞれの好みでカーペットに布団を敷いたり、ベッドを使用している人もいて一人ひとりに合わせた居室作りがされている。		